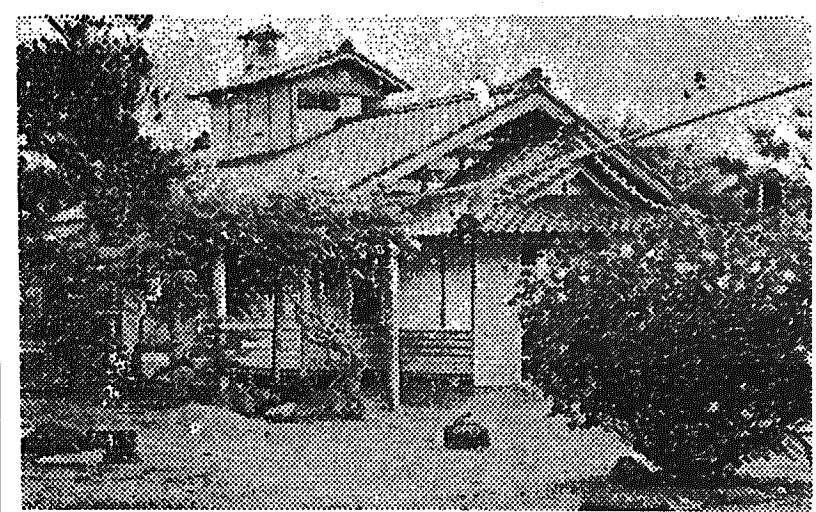


黒埼町の今昔

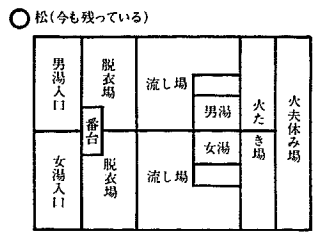
町史編さん課

緒立温泉を訪ねる(一) 昭和の初め、おおいに賜わう緒立温泉と 黒鳥兵衛の伝説にもつづまれたその霊水

温泉がブームを呼んでいる。わたしたちの黒埼町にも近郷では珍しい「緒立温泉」があり、老人憩の家黒埼荘は町内外から身近な湯治場として、年間三万人もが訪れる。しかし、その割にはこの温泉の由来は巷に伝わっていないように、今号から「緒立温泉」にまつわる話をいくつか紹介したい。



緒立の湯治場
昭和2年に竣工し、大いに賑わったが、昭和30年代徐々に客が少なくなり、41・2年ごろは閉鎖状態であった。46・7年ごろ壊された。



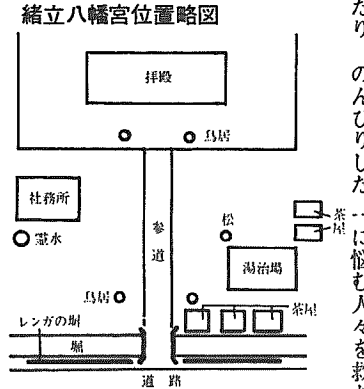
昭和初めころの緒立の湯治場のようす
緒立の湯治場は江戸時代の末から昭和四十年代まで続き、(その後黒埼荘に引き継がれる)傷や皮膚病に良くきくとわれ、多くの湯治客で賑わってきた。五十年前にもなるが筆者が七、八歳のころ、よく祖母に連れてこられた。当時の湯治場は緒立八幡宮の玉橋をわたるとすぐ右側の境内にあった(今は空き地である)。湯治場は一棟建てで三十坪ぐらいいはあったろうか。男女に分けられた入口を入ると番台があり、黒鳥の人が番台に座わって湯銭を取っていた。風呂場は真ん中をコンクリートの壁に仕切られ男女の木の浴槽が据えられていた。男女一つずつ予備の浴槽があった。洗い場はコンクリートでかなり広く二十人ぐらいいが入

れた。風呂場には暗い裸電球が二個ほどともされていて、窓には青や黄色、紫などの色ガラスがはめられ、電球の明りが映えて、安らぎと幻想的イメージを湯治客に与えた。皮膚病によくきき、近隣からも湯治客が訪れる

緒立の湯は強い塩分を含んだ冷泉をわかしたもので、色は褐色に近く、体を洗うユウテ(手ぬぐいのようなもの)は湯に入れるとしようゆ色に染まった。皮膚病にはよくきくと評判だった。当時はできものやこぼろ(皮膚病の一種)をでかした子供が多く、村内はもとより天野や酒屋あたりからも、親子で緒立へきた。一般の湯治客もよくきていた。緒立八幡宮の前には四軒の旅館があり、裕福な人たちはそこに宿泊した。長逗留する人たちは旅館で自炊する人もいた。

八幡宮の境内には樹令百年以上の古木がうっそうと茂り、拝殿の中は真夏でも涼しく、風呂上りはこので休ませてもらう人も多かった。湯治客のいちばんの楽しみはなんといいても、湯治場のすぐ両側にある茶店へ寄ることだった。茶店ではおせんべいやあめ玉などのお菓子、夏は氷水を出してくれた。大人たちはコンニャクや大根の煮しめをき

かなに酒を飲んだり、おにぎりを食べたり、のんびりした湯治場風景であった。軒は黒鳥の勘仁どんの勤大橋セツさん(明治三十九年生まれ)が切りもりしていた。セツさんが二十四、五歳のころ始め、湯治場が廃止になるときまで開いていた。昭和十年ころの緒立温泉のようすは以上のようなものであった。このころが最も賑わった時代であろう。



黒鳥兵衛の霊水が、伝説にまつまれた温泉の始まり。緒立温泉の始まりはいつごろなのだろうか。まず、水源だが、古文書によれば、江戸時代宝暦以前(二百二十年ほど前)のころから、八幡宮社務所前の柿の木の根元から湧き出ている水を「霊水」と呼び、旅行く人々が目や足を浸して疲れをいやしたり、傷ついた鳥やけものが水浴していた、と伝えられている。

この霊水は一説によれば、伝説上の人物、黒鳥兵衛が塩漬けにされているところから湧いているといわれ、兵衛が

存命中の悪事を悔悟し、病氣に悩む人々を救おうとしていた。そして江戸時代末期の文久三年(一八六三年)、ある娘が悪性の皮膚病にかかり医者にも見放されたところに、「緒立八幡宮から湧き出ている霊水に浸れ」と三晩続けて夢を見た。このお告げのとおり、霊水に浸ること三日、さしもの皮膚病が完治したという。

この噂はたちまち広がり、しかも黒鳥兵衛の伝説で名高い緒立八幡宮の神域に霊水が湧いていることから、日増しに参詣を兼ねて水浴に訪れる人が増えてきた。そこで黒鳥村の人々は、簡単な水浴場を作った。ただ、水を暖める設備がないため、わざわざ遠方からきても湯治ができず、寒いときは入浴もできなかつた。霊水を暖めてほしいという要望が強く、黒鳥村の人々は、試験的に霊水を暖めてみたところ、成果は上々で、霊水は温水に変わり、緒立温泉が始まった。以下次号執筆・宮田栄門)



信濃川河川敷公園で遊ぶ子供たち。10月26日撮影

◆表彰おめでとうございます
日本食品衛生協会・食品衛生功労者賞



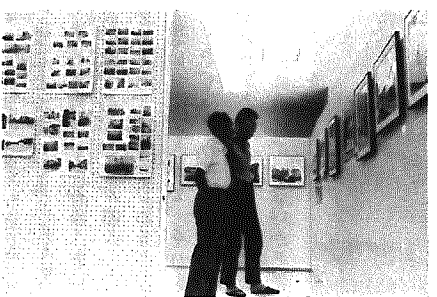
上野久平氏(大野五区)

昭和三十年から現在まで食品衛生協会役員、黒埼町同会長、燕西蒲同会副会長。

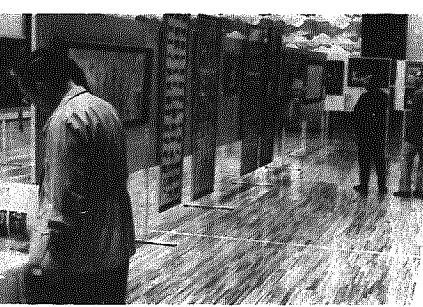
スポーツ大会結果

- ◆町民ソフトボール大会
9月28日(日)、木場野球場。▷壮年の部(8チーム出場)①オール山田②立仏愛好会③寺地団地、焼酎団地▷婦人の部(8チーム出場)①立仏アイリス②レディダックス③黒鳥ミッキーマウス、木場グラマーズ
- ◆夏季テニス大会
9月28日(日)、河川敷公園。▷男子①塚田俊昭・茨木信衛組②保苺知之・牧野和明組▷女子①山崎・中村組②戸田・勝又組
- ◆少年野球大会
10月10日(金)、木場野球場、12チーム出場。①山田シャークスA②黒鳥小③立仏小A、板井ホワイトシャークス
- ◆少女ミニバスケットボール大会
10月10日(金)、総合体育館、10チーム出場。①山田小A②立仏小A③大野小A、木場小
- ◆公民館分館対抗ゲートボール大会
10月10日(金)、鳥原運動場、30チーム出場。①大明B②大野③金巻D、大野八区。

◆おも掘りオモシロイ
十月八日(水)、寺地保育所の園児たち約八十人が、北部地区公民館隣のオモ掘りでサツマイモ掘りをしました。この畑は同公民館で開催している園芸講座で育てたものです。一反ほどの畑からサツマイモのほかにアゲハの幼虫など虫もたくさん出現し、園児たちはおもしろくてしかたがないようでした。



◆思い出なつかし写真展
九月二十六日(金)から二十八日(日)まで北部地区公民館で、くろさき思い出なつかし写真展が開かれ、のべ百五十人が訪れました。展示された写真は、大正時代から昭和三十年代までのもの約五十点で、中の口川に浮かぶ帆船や大野の吊り橋など今では見られないものばかり。郷愁と時の流れのはやさを伝えていました。



優勝した山田シャークス

遊び心を、JC美術展
第一回くろさきJC美術展が十月十日(金)から十二日(日)まで環境改善センターで開かれ、町内外から二百点近い作品が集まりました。町で公募の美術展は初めて。主催はJC(青年会議所)で、理事長の安達竹郎さんは、黒埼町の心の豊かな、遊びの心が持てる町にしたい。心配した出品は予想をはるかに上回り大成功です。

山田小で実習田稲刈り
山田小学校では九月二十五日(木)、十アールの実習田で稲刈りをしました。当日は六年生八十人あまりがカマを手に田んぼに入り、お母さんや先生と一緒に自分たちが植えてきた稲を一株一株刈り取っていました。非農家の子がほとんどのため、稲刈りは初めて。十二月の収穫祭では、収穫の喜びも初体験するでしょう。

JC美術展入選者
▼JC大賞 瀧川智子(書道、立仏) 写真上、二十ページ参照
▼新潟日報賞・小林文一(絵画、燕市) ▼奨励賞(絵画) 中川喜代子(新潟市) 永場令子(分水町) (造形) 藤井宏(燕市) 椿和子(新潟市) (書道) 谷恵美子(黒埼町) 梨本繁(巻町) (写真) 永井守(黒埼町) 松尾勝栄(白根市) ▼入選(黒埼町) (絵画) 北原房子、清水美和子、小林和秀、西潟たみ子 (造形) 白井睦(書道) 遠藤美代子、木村千恵、亀倉友子 (写真) 風間幸子、坂井俊文、川本絵
▼メーカ賞(写真だけ) 小林フミ、川本絵、佐藤健治、古澤正夫 ※敬称略
〔審査員の評〕
近藤直行氏(絵画) ……素材で土の香りの作品が多い。亀倉康之氏(造形) ……作品は初歩的であったが、素直な造る楽しさが伝わった。江川蒼竹氏(書道) ……他の都市展に比べ上下の差がなく、特に上位は第一級だ。池田義弘氏(写真) ……レベルがひじょうに高かった。